

お国自慢



株川崎技研

**佐世保広域圏北部塵芥処理
一部事務組合**

清流「佐々川」と西海国立公園「九十九島」など 自然環境を残す

・・・佐々クリーンセンター・・・

1. はじめに

佐々クリーンセンターは長崎県の北部（北松地域）に位置し、九十九島やリアス式海岸が美しい景観をなす西海国立公園に隣接しています。又、長崎県下一の長流である佐々川からの豊かな清流が生み出す自然の恵みを存分に感じることができる地域です。

この地域は西海広域観光ゾーンの形成に向けて歴史的・文化的資産を活かした観光開発や恵まれた自然を活かしたレクリエーション施設等の整備が進められています。



佐世保広域圏を含む北松地域は基幹産業であった石炭産業の衰退後、農林業、水産業を中心とした地域となり、最近では高齢者対策、公共下水道、公営住宅等の住環境整備に力を入れた結果で人口も増加傾向にあり、「夢と希望あふれる住み良いまち」作りを目指しています。



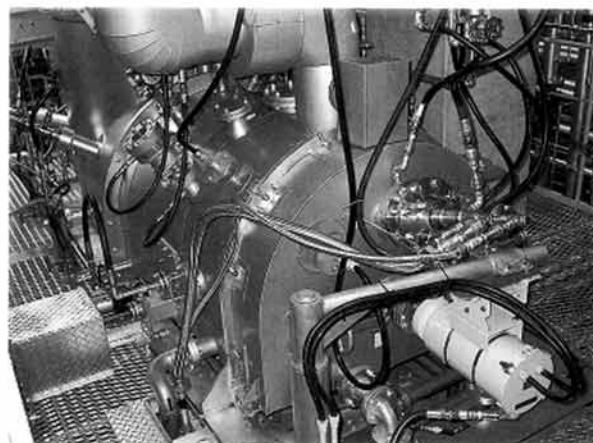
佐々クリーンセンター全景



ストックヤード

2. 組合経緯

佐世保広域圏北部塵芥処理一部事務組合では佐々クリーンセンターを平成8年に4町構成により建設しましたが、その後平成11年に近隣の2町が加入し、最近までは6町の構成で運営されていましたが、しかしながら平成の大合併で今現在では佐々町、鹿町町、江向町の3町構成にて運営されています。又、組合では最終処分場での埋立余力が無い理由と環境負荷を軽減する目的から現システムのストーカ直結溶融炉を導入しています。



溶融炉本体

3. 施設の概要

名称：佐々クリーンセンター
所在地：長崎県北松浦郡佐々町小浦免 1163-20

処理方式及び能力：

ストーカ直結溶融炉
焼却規模 36t / 8h (18t / 8h × 2 炉)
粗大、不燃処理施設 8t / 5h
資源物ストックヤード貯留容量 309m³

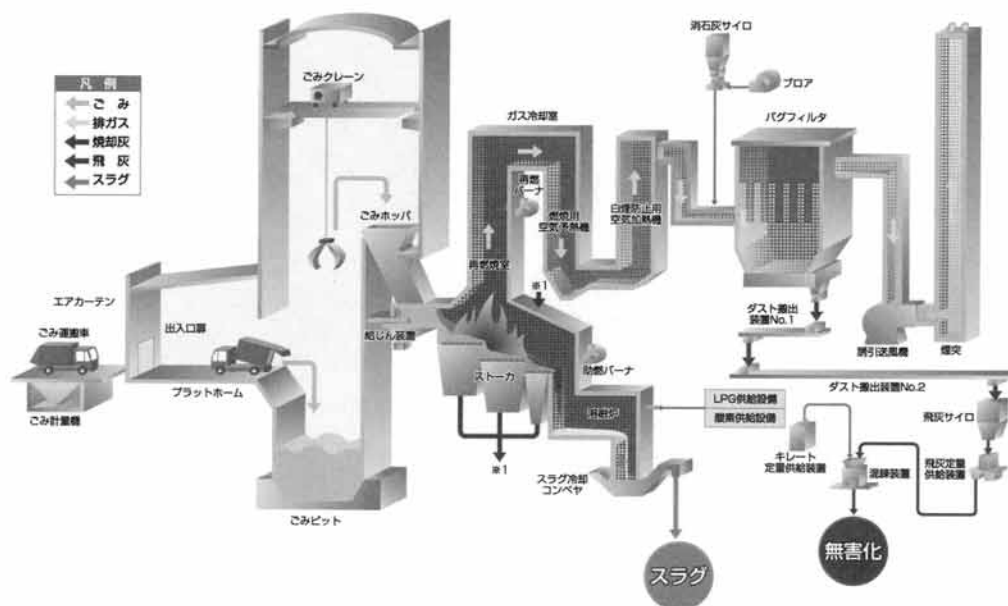
敷地面積：8228m²

竣工年度：平成8年4月<ストーカ直結溶融炉は平成16年4月竣工>

設計施工：株式会社 川崎技研

4. 処理概要

構成の3町から収集される一般可燃物や粗大、不燃物等は佐々クリーンセンターに運び込まれ、一般可燃物と不燃物処理に於ける破碎残渣はストーカ直結溶融炉で燃焼・溶融され連続的に溶融スラグとして排出後再利用されます、又、粗大、不燃物等は破碎選別過程を経て資源化によりリサイクルされています。ストーカ直結溶融炉システムの詳細はJEFMA52号71頁を参照下さい。



ストーカ直結溶融炉処理フロー

佐世保広域の地域紹介

さざちよう
佐々町

佐々川が育んだ自然を活かし、都市化を進める。



〈皿山窯跡〉

皿山窯跡(長崎県指定文化財～昭和25年指定)市瀬の皿山は、1751年～1825年までの75年間、福本新左衛門を中心とした陶工たちによって続いたと伝えられています。窯の規模は全長63mに及ぶ大型の登り窯。瀬戸の陶工「加藤民吉」は、1804年から1807年まで、二代目福本仁左衛門のもとで、磁器の製法を会得して、その技法を瀬戸に伝えました。

しかまちよう
鹿町町

夕日に手がとどく美しかまち。



〈長串山公園〉

西海国立公園・北九十九島を一望できる長串山(標高234m)は、長崎県北部の歴史の町「平戸」とハウステンボスで有名な「佐世保」とのほぼ中間に位置し、それぞれ1時間以内で足を伸ばすことのできる絶景の地にあります。久留米ツツジ、平戸ツツジをはじめとする10万本のツツジと北九十九島が織りなす景色は絶景です。

えむかえちよう
江向町

活気にあふれ、豊かな自然と文化の香る街。



〈白岳公園〉

美しい花が咲き、小鳥たちのさえずりが聞こえる春。深い緑に包まれ、キャンプを楽しむ人々で賑わいを見せる夏。そして山々が色づき、さわやかな風が高原を包む秋…。江向町のシンボルともいえる白岳公園では、四季おりおりの美しい自然を堪能することができます。標高373mの白岳の頂上からは、伊万里湾、平戸の瀬戸、九十九島、五島列島が一望でき、登山道は健脚コース、ファミリーコースがあり、自然観察を兼ねたハイキングやピクニックなどに最適なスポットとして、多くの人々に親しまれています。